（２０１２年度山西大学奨学生レポート１２月）

冬至とクリスマスの過ごし方

後藤千恵

12 月に入り、ますます気温が下がり、昼間でも零度を下回る日の方が多いくらいです。晴れる日も多いのですが、風が吹くと特に耳が痛くなり、この寒さを日常的に経験したことのない私にとっては耳が落ちるのではないかと思うときもあるほどです。

12 月の間に雪が 3 回ほど降りましたが、それぞれ 3 ㎝ほど積り、溶けるまで 1 週間ほどかかりました。そのまま道路に凍りついてしまっている場所も多いので、道を歩くときは注意が必要です。また、太原の雪は日本のそれに比べて含まれている水分が少なく、さらさらとしていて雪かきも比較的楽ですが、階段など、凹凸の少ない地面の上に積ると、カラカラの小麦粉を撒いたようになり、滑りやすく歩くのに苦労しました。

さて、今回は冬至とクリスマスについてレポートさせていただきたいと思います。

ます、12 月 21 日は「冬至」です。私の住むところではかぼちゃやこんにゃくを食べ、柚子湯に入るのが一般的な習慣ですが、太原では餃子を食べるのが習慣のようで、街の多くの飲食店では餃子が安く売られていました。

ちなみに、中国で「饺子」（ジャオズ：餃子のこと）と言えば、茹で餃子か蒸し餃子が一般的です。焼き餃子は「锅贴儿」（グオティアル）といって、区別されています。

そして、なぜ冬至に餃子を食べるかというと、餃子の形を耳に例え、「要不会冻掉耳朵」（寒さで耳が落ちないように）ということで食べるそうです。

その後にやってくるのがクリスマスですが、友人に聞いたところ、クリスマスは日本と同じく、買い物をしたり、プレゼントをあげたりして過ごすことが多いそうです。

クリスマスイブのことは「平安夜」（ピンアンイエ）といい、この日にリンゴを友人やお世話になった方へ贈るそうです。なぜリンゴを贈るかというと、中国語ではリンゴのことを「ピングオ」（苹果）と発音するため、「ピンアンイエ」（平安夜）とかけて「ピンアングオ」（平安果）と呼び、写真のように加工されたり、包装されたりし

て売られています。この習慣はごく最近始まったそうですが、私の行った全てのスーパーで“平安果”を見ることができました。

私も友人からいただきましたが、「平安果」を買っている人をあまり見かけなかったほか、仕入れたリンゴが多すぎたのか、1月に入ってからも同じリンゴが相当数売れ残っており、この習慣が人々の間に定着しているかどうかというと、そうではなさそうです。

クリスマスは「圣诞节」（シェンダンジエ）といい、1週間ほど前から、ほとんどの商店は店先にサンタクロースなど、クリスマス用の飾りを貼ったり、ツリーを置いたりしていました。また、店先に飾られているサンタクロースはほぼ例外なく左右で対になっており、“対”を縁起がいいとする中国らしいと思いました。

私は友人とクラスメイトや友人にちょっとしたクリスマスプレゼントを用意したのですが、それを中国人の友人に渡したところ、友人が私たちに言ったのが、4つの贈りものはダメということでした。私たちはチョコレートと飴を4つ包んでいたのですが、特に贈り物の面で4は不吉な数字だそうで、また別の友人も、気にする人もいるからやめた方がいい、と言ってくれました。「送四」と「送死」が同じ「ソンスー」という発音であるため、ものを4つ送るのは避けるのが常識だそうです。日本でも4はあまりいい数字ではありませんが、注意したことがなかったのでそこまで気が回りませんでしたし、中国の習慣についての理解も足りませんでした。このような習慣はとても興味深く思いますし、中国で生活する上で、中国の「一般常識」についても知らなければならないことがまだまだ多いと感じました。注意してくれた友人に感謝するとともに、これ以降気をつけて生活していきたいと思います。

茹で餃子です。日本の餃子よりも皮が厚く、もちもちとしているので、とても食べごたえがあります。

「平安果」として売られていたリンゴです。多くのリンゴにこのような文字や絵が描かれていました。

クリスマス前後の衣料品店の様子です。中ではセールをやっていました。ドアに貼られているサンタクロースの顔はごく一般的なもので、多くの商店の店先に飾られていました。